



いい ざか かす や
飯 坂 一 也
(公明党)

● 地域防災力の強化を ● 国内と国外の観光交流人口の拡大を

質問 万一の災害に備え、食料の3日分の備蓄や家具の転倒防止について継続的な働きかけをすべきと考える。またホームページ上の防災マップが扱いづらい。改善が必要と思うが。

市長 家具の転倒防止や備蓄については、地域の講習会などを通して推進をしていく。防災マップについては、地区センター単位の範囲でも確認ができるような工夫をしていきたい。

質問 防災に関する地域リーダーを育成するために、防災士資格の取得の奨励をすべきと考える。自主防災組織においては、災害図上訓練(DIG)などの訓練が意識向上のために有効とされている。市としても推進すべきと考えるが。

市長 自主防災組織における講習会などを通して、リーダーの育成や図上訓練

の紹介をしていく。

質問 観光交流人口の拡大のため、国内の自治体間の交流を推進すべきと考える。また外国人観光客の宿泊数をできるだけ正確に把握すべきと考えるが。

市長 交流人口の拡大については、北海道新幹線の新青森・新函館間が開通することも一つのきっかけになると考える。宿泊数については、宿泊業者に協力を依頼し、外国人観光客の宿泊数を把握していきたい。



観光案内板の多言語化の推進を

● 前沢診療所の入院診療を可能に ● 市営住宅の維持管理と整備は



すが わら あきら
菅 原 明
(日本共産党)

質問 前沢診療所の先生が休養され、入院病床が休止になって一ヶ月になろうとしている。入院されていた患者さんは、水沢病院・まごころ病院・衣川診療所で診療されているが、前沢診療所で従来どおり入院診療が可能になるには、医師の確保が必要だ。

市長 今回の前沢診療所の入院病床休止に当り、市長は、地元医師会へ医師確保等をお願いをし、協議検討をされたのか。

市長 所長の休暇により、夜間の病状の急変等に対処できる医師が不在となり、代わりになる常勤医師の確保も検討したが困難であり、安全な看護を担保できないことから、やむを得ず転院の手続きをとらせていただいた。内科診療医師の外来応援については、市立病院、診療所の協力を得て、毎日の診療を確保できているが、今後の応援診療の状況をみながら、医師会をはじめ、他の医療施設への応援要請も考えて行く。

質問 市営住宅の現状は、市町村合併以前に建設された建築物であり、定期点検や補修工事、内装の改善等が、必要になっていると感じる。現在の利用状況と今後の維持管理を、どのよう

に検討しているか。合わせて、前沢区に計画されている、新団地建設の進捗状況はどのようになっているか。

市長 市営住宅の管理戸数は、4月1日現在で、22団地970戸となっており、内、入居不可の住戸116戸を差し引いた854戸の管理を行い、入居中の部屋が841戸であるから、98・5%の入居率になっている。維持管理については、市営住宅保全計画にそって、予防保全的な観点から対応している。

前沢区に計画している新団地については、今年の3月に建設用地が決定し、平成28年までの3カ年で24戸建設する計画であり、入居については、平成28年の4月を考えている。



古くなった白山堂住宅(衣川区)